

暮らしを支える地域公益活動を紹介します。

キラリ★社会福祉法人

丹波市社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんネット丹波)

ネットワークを進める「福祉人材確保」と 「よろずおせっかい相談所」

「ほっとかへんネット丹波」は、平成27年9月に設立され、市内全ての社会福祉法人(18法人)が参画している。

今回は、高校生や移住希望者などを対象とした人材確保の取り組みや、よろずおせっかい相談所について紹介する。

目立つ色を使ったタスキやノボリで「ほっとかへんネット丹波」をPR



福祉人材の不足は地域の課題

同市では、ネットワークの設立以来、社会福祉法人が連携して何ができるのか、行政も含めて協議を重ねた。そんな中、全法人の課題として挙げられたのが、「福祉人材の不足への対応」であった。人材不足で安定したサービスが実施できなくなると、住民ニーズに応えられず、若年者の流出で人口減少傾向にある地域に悪影響を及ぼす。そんな危機感が法人間で共有された。

そこで、市外からの転入を促すため、学生を対象とした「奨学金返済支援補助金」、介護福祉士や保育士などの女性有資格者を対象とした「女性有資格者人材バンク」「有資格者家賃補助制度」といった仕組みを、法人が連携して行政に提言し、制度化に結び付けた。また、市内の高校生を対象とした施設見学やショッピングモールでの就職フェア、移住希望者向けの施設見学ツアーも実施している。

社会福祉法人が連携したこれらの取り組みは、生まれ育った土地での就労の後押しとなり、丹波へのUターンや移住を希望する人には安心できる雇用の提供にもなっている。福祉人材の確保という課題への取り組みは、地域の活性化にもつながっている。

安心して住み続けられる地域を目指して

協議をきっかけに始められたもう一つの取り組みが「よろずおせっかい相談所」だ。全ての社会福祉法人が事業所に看板を掲げ、いつでも住民が相談できる環境を整えている。「住民の『困った』という声を受け止める窓口でありたい。看板を掲げ続け、身近な所に窓口があると安心してもらえることが大事」と、澤村安由里代表(社会福祉法人山路福祉会)は話す。

さらに、昨年度は、社会福祉法人や行政、社協の職員を交えた「地域づくり懇談会」を開催し、日頃感じている地域の課題について検討したり、補助金を活用した広報ツールを用いて市内のイベントで「ほっとかへんネット丹波」のPRに取り組んだ。これらを通して、各法人の代表者同士で、顔の見える関係が構築されてきたため、今後は、職員などの実務者同士の関係づくりに力を入れる予定だ。

「地域の課題解決に向けて、社協や社会福祉法人、行政などが連携して取り組むことで、安心して住み続けられる地域づくりを共に目指したい。異なる法人の職員が一堂に会する機会を増やし、そのような意識をみんなで共有して取り組んでいきたい」と、澤村代表は、今後の意気込みを語った。



懇談会では「移動手段」や「つながりの希薄化」などの課題が出されました

ほっとかへんネット丹波
事務局:社会福祉法人丹波市社会福祉協議会
TEL:0795-82-4631